第 2 回日本甲虫学会大会・採集会　報告

第 2 回日本甲虫学会大会は，北海道大学高等教育推進機構 S 棟にて，2011 年 7 月 30 日（土）から 31 日（日）にかけて開催された．北海道という遠隔地であり，3.11 の東日本大震災の影響，アイドル嵐の大型コンサートと日程が重なり宿泊施設の確保が難しい状況となり，参加人数 74 人のやや少なめな学会となった．初めての試みとして，日本鱗翅学会（第 58 回大会）と共同で開催し，会場 1 階を鱗翅学会，2 階を甲虫学会で使用，シンポジウム，懇親会を共催で行った．鱗翅学会と合わせると，209 名参加の大型大会となった．

シンポジウムは「北方圏の成り立ちと，その昆虫相」（座長：大原昌宏）のタイトルで，五十嵐八枝子「北方圏における最終氷期以降の植生変遷史」，高橋英樹「北方圏の植物分類地理」，初宿成彦「最終氷期の北海道の甲虫相」，朝日純一「サハリンの蝶相 — 解明の進展と再検討（予報）—」，中臣謙太郎「北方の樹林帯とシャチホコガ」（敬称略）の 5 名の講師の講演が行われた．

一般講演は，口頭発表 13 件，ポスター発表 5 件が行われ，活発な研究発表と質疑応答がなされた．通例の同定会は参加者全員楽しそうな驚きと興味津々の顔つきでお互いの標本箱を覗き合う一時．専門家の講師の先生方，ご協力有難うございました．

分科会は，7 件：北方のゴミムシの小シンポジウム（世話人：伊藤　昇），ハネカクシ談話会例会（野村周平），ハムシ分科会（松村洋子，末長晴輝），カミキリムシ分科会（長谷川道明），ゾウムシ分科会（的場　績），水生甲虫小集会（蓑島悠介），雑甲虫分科会（生川展行）が開催された．

初日夕方の懇親会は，両学会で 167 名の参加があり，お互いの分野の垣根を越えた甲虫屋と蝶屋・蛾屋という異分野交流が盛んに行われた．遠くからの参加者には，有志からの土産が配られ（図 1），いつにない雰囲気の盛り上がりの楽しい会となった．

採集会は，大会終了後の 8 月 1 日～ 2 日，、層雲峡温泉のペンション「山の上」において一泊で行われ，10 名の参加があった．初日夕方に一同現地集合し，食事（図 4）の後に有志でゲンゴロウモドキを探しに行くが幼虫ばかりで成虫は 1 ペアのみ，帰り道に立ち寄った雨中の街灯でなぜかホソコバネカミキリが見つかる．翌日は，大雪湖～十勝三股周辺で甲虫探し．各自思い思いの甲虫を採っていたようで，カラフトヨツスジハナカミキリ，ポプラハムシ，ムラサキハムシ，ルリマルクビゴミムシなどが採れていた．大雪湖の近くに太いドロノキが積まれた土場があり（図 5），エゾアオタマムシを探したが残念ながら見つからなかった．

最後に，大会事務局の不手際により，大会内容が参加予定者のみの通知で，事前に会員全員に連絡がなされなかったことについて，慎んでお詫び申し上げる．

大会会長：久万田敏夫，大会実行委員長：堀　繁久，大会事務局：大原昌宏，古川恒太，蓑島悠介．

発表内容は以下のとおり．

口頭発表

（O-1）岸本年郎：小笠原諸島聟島列島の昆虫相

（O-3）堀　繁久：台風により生じた森林ギャップの歩行性甲虫群集モニタリング

（O-4）福富宏和・富沢　章・石川卓弥・大宮正太郎・徳本　洋・小川弘司：石川県におけるイカリモンハンミョウの現状と保全

（O-5）岡田亮平：北海道渡島半島のゲンゴロウ相

（O-6）蓑島悠介・林　成多：日本産ヒラタガムシ亜族の幼虫形態

（O-7）大原昌宏・小林憲生・蓑島悠介・林　成多：北海道における海浜性ケシガムシ類の整理と幼虫形態について

（O-8）稲荷尚記・小林憲生・大原昌宏：小樽市銭函における海浜性ケシガムシ類の季節消長

（O-9）野村周平・丸山宗利：タイ西部および南部においてライトトラップにより採集されたアリヅカムシ相の比較

（O-10）高橋和弘：日本産*Asiopodabrus*属（ジョウカイボン科）の現状と今後の課題

（O-11）河上康子：大阪市におけるアカホシテントウの発生消長

（O-12）末長晴輝：日本産*Notosacantha*ヒラタカメノコハムシ属（コウチュウ目: ハムシ科）幼虫の形態お

よび生態について
（O-13）松村洋子：旦那さんは初夜にむけて準備運動が必要！？－内袋骨片が極端に長いトゲアシクビボソハムシの事情－
（O-14）石濱宣夫・井口和信・上堀義文：東京大学北海道演習林（富良野市）で採集されたカミキリムシ類

ポスター発表
（P-1）中西康介・田和康太・村上大介・沢田裕一：滋賀県高島市における水生甲虫群集の水田利用状況
（P-2）菅谷和希・甲斐達也・小川　遼：愛媛県におけるナンカイイソチビゴミムシの再発見と分布状況について
（P-3）吉富博之：ヘリハネムシの雄交尾器
（P-4）工藤雄太・小島弘昭・吉武　啓・馬場友希・小林憲生：ハマベゾウムシ（コウチュウ目ゾウムシ科）の遺伝的集団構造について
（P-5）籠　　洋・藤澤貴弘・野間直彦・沢田裕一・近　雅博：サギコロニーの消失による地表性甲虫群集の変化

（大会実行委員長　堀　繁久・
大会事務局長　大原昌宏）

図1.　懇親会の様子.

図2.　口頭発表の様子.

図3.　ポスター発表の様子.

図4.　採集会の食事の様子.

図5.　エゾアオタマムシを探す福富氏と末長氏.